

## 食のみやこととり～食育プラン～

<対応方針> ①反映した(一部のみ反映するものを含む) ②既に盛り込み済み ③今後の検討課題 ④対応困難 ⑤その他

項目	主な意見 (いただいた意見を要約して記載しています)	件数	対応方針
鳥取県のこれからの食育	「豊かな人間性」は、「生きる力」のなかの1つの事項であるため、基本方針の「豊かな人間性を育む食育」は、大きな意味合いを持たせて「生きる力を育む食育」とした方がよいのではないか。	1	② 食育基本法の目的は、国民が生涯にわたって健全な心身を培い、豊かな人間性を育むことができるよう、食育を総合的かつ計画的に推進することにあるため、「豊かな人間性の育成」を基本方針として位置付けました。さらに大きな視点で、食育を通じて目指す姿を「生きる力の育成」としています。
	「食に対する感謝の心を養う」という重点目標について、感謝以前にあるものに思いが至っていない。申し訳なさのあとに感謝がくるはずである。身体的実感なしで、常識的な大人が、観念的に語る感謝などでは、力を持たない。	1	② 食育の実践は、誰かの言葉ではなく自分で体験することで、自分のものとして身に付くものであり、栽培、料理、共食など体験を重視する食育を推進することを基本方針に盛り込んでいます。
	食や家族との関わりを、ありきたりの言い方や常識的な家族観ではない仕方できかに語れるかが課題。	1	② 食育の実践は、誰かの言葉ではなく自分で体験することで、自分のものとして身に付くものであり、栽培、料理、共食など体験を重視する食育を推進することを基本方針に盛り込んでいます。
	「1日3食、規則正しく食事をする」と「主食・主菜・副菜を揃えた食事をする」を一緒にして、「よく噛んで味わって食べる」を追加してはどうか。	1	② 4つの重点目標及び12の目標については、健康を支える食文化専門会議において検討して設定しましたが、「よく噛んで味わって食べる」ことも健全な食習慣の実践に必要であることから、家庭での具体的な取組として記載し推進していきます。
今後の取組に向けた県の推進方策	県が果たすべき役割と具体的な取組が突然でてくるが、既出の「4つの重点目標と12の目標」との関わりは、どうなっているのか。	1	① 県民が重点目標を実践できるよう、県組織、関係機関が連携して取り組んでいくため、県の果たす役割を市町村や地域で行われる活動の支援とし、そのための具体的な取組を分野別に整理したものです。趣旨が伝わるよう修正します。
	県の果たすべき役割について、図だけでは意味がよく分からないので、本文中にこの図の意味することをきちんと書いたほうがよい。	1	① 追記します。
関係者に期待する役割と具体的な取組	保育所・幼稚園が取り組むことについて、「よく噛んで味わって食事を楽しむ共食の実践」や「口腔機能の発達を育む食育方等の支援」を加筆・追加してはどうか。	1	① 味わって食べることについて修正しました。口腔機能について追記しました。
	学校(幼稚園を除く)が取り組むことについて、<具体的な取組み例>に「食べる力の育成(咀嚼能力)と味わい食べの支援」を追加してはどうか。	1	② 同趣旨を記載済みです。
	関係者に期待する役割の図中の箇条書きについて、8ページから11ページの項目を記載した方がよい。	1	① 修正します。
今後の取組に向けた県の推進方策 関係者に期待する役割と具体的な取組	「健康的な食生活を実践しやすい食環境の整備」とは、たとえばどんなことでしょうか？	1	⑤ 外食や調理済み食品を利用する機会が増えていることから、栄養成分表示をしたり、野菜たっぷりメニューなどを提供する飲食店を増やすことで、家庭で食事をしない場合でも、健康管理に配慮できるようにすることです。
計画の点検・評価	目標値に「共食の推進」の設定が無いので、是非とも設定すべき。	1	② 平成20年4月に作成した現計画で共食の推進に関する目標値を達成できたとともに、鳥取県では全国と比べて共食の機会が多いことから、新しい計画の目標には設定しませんでした。しかし、基本方針に位置付けたとおり、重要な視点であることから、今後も引き続き共食の推進に取り組んでいきます。
	目標値に「よく噛んで味わって食べる」ことの設定が無いので、是非とも設定すべき。	1	③ 「よく噛んで味わって食べる」ことは家庭での具体的な取組として記載しているところですが、その実践の程度を把握するデータがないため現時点で設定することが困難ですが、今後の課題として検討します。
	「主食・主菜・副菜の揃った食事をする県民の増加」「朝食を食べる県民の増加」は、それぞれ、鳥取県健康づくり文化創造プラン(第2次)の指標と重複しているの、削除してもよい。	1	④ 食育としても重要な視点であること、特に「朝食を食べる県民の増加(成人男性)」は、平成20年4月に作成した現在の計画で唯一悪化した指標であることから、目標値として設定しています。
	「地産地消を知っている子どもを増やす」子どもとは？調査対象は？	1	⑤ 学校栄養士協議会が県内の小学5年生、中学2年生を対象に実施している調査が出典です。
具体的な取組	地域の空いている農地等を利用して、子供たちに農業体験をさせてはどうか。これは、学校に任せるだけでなく、自治体・地域が一体となっておこなってはどうか。	1	② 地域の農地等を利用して、地域団体や生産者による様々な農業体験活動が実施されており、計画(案)には、学校だけでなく、生産者、地域の団体、市町村、県による具体的な取組として、農林水産業に関する体験活動について記載しています。
	地域で収穫した野菜・果物・肉・魚介類等を使用した料理教室(親子クッキング体験)を積極的に実施してはどうか。土日、夏休み・冬休み等に積極的に各地で料理教室や親子クッキング体験を開催してはどうか。	1	② 公民館や学校施設を利用して、様々な団体による料理教室が開催されており、計画(案)には、地域の団体による具体的な取組として、料理教室や調理実習について記載しています。
その他	文末の言い回しが違うので、揃えた方がよい。	4	① 修正します。